



令和3年度 東京都立鹿本学園 学校経営報告

校長 高橋 馨

※S=肢体不自由教育部門、N=知的障害教育部門

赤字は学校評価アンケートでのプラス評価の数値

自己評価は【大いに達成：◎ 達成：○ 一部達成：△ 未達成・未実施：×】

I 今年度の取組と自己評価

1 重点目標に関する数値目標と実績値 及び今年度の取り組み

重点目標1 併置型学園としての魅力ある教育の充実、発信 【自己評価：◎】○全関係者評価：「併置型学園として特色ある活動を推進することができている」 $\geq 90\%$ ⇒ **88%**○全関係者評価：「学校内外の活動をHP、FB等の活用により情報発信ができている」 $\geq 90\%$ ⇒ **97%**

- ・特色化/併置型学園としての特色ある教育活動の充実・発信
初のSN合同虹輝祭の実施/実施形態の変更と内容の精選、教員間の連携の推進で効率化も実現
- ・ICT機器、デジタルを活用した新たな学び、新たな活動の創出
8割以上の教員がオンライン授業を実施、天気レポートや宝物紹介等の新たな学びを創出
- ・各学部、各教育課程での育てたい力の明確化と、PDCAサイクルによる授業改善
全校共通テーマで3ヵ年計画の研究を開始。「しかもとの学びの構築」シラバスを作成した。
- ・学校紹介、行事、便りや通信などの動画による積極的な情報発信

重点目標2 効率的・機能的な学校組織の確立による組織力の向上と環境整備 【自己評価：○】○委員評価「個人端末を活用した組織的・効率的な業務改善を推進している」 $\geq 80\%$ ○委員評価「組織改善による教職員の業務分担の均等化が図られている」 $\geq 80\%$ ⇒委員評価「組織的・効率的な業務改善、DXの推進やライフ・ワーク・バランスの意識向上」**86%**

- ・オンラインによる校内研修の効率化（服務事故防止研修のワークショップ、NHKによる研修）
- ・玄関サーモカメラ常設化による業務縮減
- ・アンケートフォームを活用した集計・調査やクラウドPBXの導入

重点目標3 専門性ある人材を活用した教育の充実 【自己評価：○】○委員評価「自立活動指導員や外部専門員を日々の指導に活用し、授業改善、教材充実が図られている」 $\geq 90\%$ ⇒ **100%**

年間を通して安定して実施できていた。更なる活用推進に向け、教員のニーズに応じた手続きの改善や専門員の見直しも進めることができた。

2 教育活動への取組と自己評価

<学習指導>

(1) 教育課程の充実 — 社会参加に向けた確かな学力の獲得 — 【自己評価：○】○児童・生徒の障害の実態を踏まえて、新学習指導要領に基づいた適切な目標や手だてによる実践と評価
⇒ 委員 (100%) 保護者 (97%) 教職員 (98%)

・3ヵ年計画による鹿本の「学びのロードマップ」構築に向けた1年目として、シラバスの作成を行った。

(2) 授業力の向上 — 個に応じた学習指導の充実 — 【自己評価：◎】○ICT機器やタブレット端末等を活用した授業の実践と指導技術の向上、及び新型コロナウイルス感染症不安等で登校ができない児童・生徒へのオンライン授業の実施と指導技術の向上
⇒ 委員 (100%) 保護者 (76%) 教職員 (99%)

○児童・生徒の障害特性や課題に応じた、専門性のある指導が行われていますか。

⇒ 委員 (100%) 保護者 (95%) 教職員 (98%)

○日々の授業について、指導環境の整備や教材の工夫や、分かりやすい授業の充実

⇒ 委員 (100%) 保護者 (93%) 教職員 (99%)

- ・ICT・オンラインの活用については、新型コロナウイルス感染症第6波の急拡大をきっかけに、自宅待機児童・生徒の学習保障としてオンライン学習を一気に進めることができた。ほとんどの教員がオンライン学習を実践したことで、気付きや新たな学びの創出につながっていた。

(3) 言語能力の向上と読書支援の推進 【自己評価：◎】

○教職員の適切な言葉遣いや読書活動を通し、児童・生徒の言語環境は高める

⇒ 委員（86%） 保護者（93%） 教職員（99%）

- ・令和3年度に立ち上げられた読書教育研究会の基幹校の一つとして全都的な活動を推進。

校内の読書活動は感染症対策による制限が緩和されたことを受け 年間貸し出し数は7340冊

<生活指導>

(4) 安全・安心な学校生活を送れる生活指導体制の構築 【自己評価：○】

○障害特性を踏まえた防災教育や避難訓練、安全な施設設備の整備を意識した実践

⇒ 委員（100%） 保護者（93%） 教職員（99%）

○スクールバスの安全発着体制や一人通学の指導体制構築等、通学環境の整備

⇒ 委員（100%） 保護者（92%） 教職員（95%）

- ・福祉避難所として江戸川区との手続きを終えた。緊急舗装設備等、区との連携は着実に進んでいる。
- ・感染症対応のため全校で実施できていない避難訓練の改善を進めると共に、発災時に対応するメンバーが誰でも対応可能な仕組みの検討を進める。

(5) いじめ・体罰の禁止根絶と生命尊重教育の推進 【自己評価：○】

○体罰や暴言をなくすための、人権尊重に基づく指導が実践できているか。

⇒ 委員（86%） 保護者（84%） 教職員（99%）

- ・SNSやオンラインゲームでのトラブルをきっかけとした事象が散見された。大事には至らなかったが、今後はそうしたトラブルを想定した指導も検討する。

<進路指導・キャリア教育>

(6) S部門12年、N部門9年を見通した指導計画の改善・充実 【自己評価：○】

○児童・生徒の将来を見据えた、キャリアと自己肯定感を高める教育

⇒ 委員（86%） 保護者（95%） 教職員（96%）

全校研究により3ヵ年計画で進めている。シラバスの作成や現在の指導内容の整理を行った。

<特別活動・部活動>

(7) 東京2020オリンピック・パラリンピックレガシーの構築と感染対策を講じた特別活動・部活動の充実 【自己評価：△】

○オリンピック・パラリンピック教育の5つの資質「ボランティアマインド」「障害者理解」「スポーツ志向」、「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」を踏まえた教育の実施

⇒ 委員（100%） 保護者（75%） 教職員（93%）

ポッチャによるオンライン交流を近隣の小学校、中学校、高等学校と実施。ゲームの盛り上がりを通してより自然な交流を実現。ポッチャ競技の理解を広めることができた。

部活動では特別支援学校間での3校オンラインポッチャ練習試合を実施。

宿泊防災訓練は宿泊無しで実施。

<保健・健康>

(8) 安心できる保健体制と安全で美味しい給食を提供できる体制の構築 【自己評価：◎】

○安心・安全な医療的ケア制度の啓発と医療的ケア体制の実現

⇒ 委員（100%） 保護者（81%） 教職員（91%）

○適切なアレルギー対応を行うとともに、摂食機能を高める、安全でおいしい給食の提供

⇒ 委員（100%） 保護者（91%） 教職員（98%）

○感染症予防に配慮した環境設定と対策

⇒ 委員（100%） 保護者（95%） 教職員（94%）

- ・重大事故「0」、校内での大規模感染も防ぐことができていた。
- ・感染状況を共有し、状況に応じた学習活動への変更を組織的に行い対応することができていた

<地域連携と広報活動>

(9) 地域支援力の向上と地域連携・広報活動の充実 【自己評価：◎】

○地域の学校、関係機関への適切な支援と連携

⇒ 委員（100%） 保護者（1%） 教職員（92%）

- ・感染症の影響を受けながらもオンラインによる研修会等を実施することで支援・連携を継続した。

<学校経営>

(10) 魅力ある学校環境・職場環境の創出 — 10周年に向けた計画的な更新・改修 — 【自己評価：○】

○清潔で美しい学校環境を整えられていますか。

⇒ 委員（100%） 保護者（95%） 教職員（95%）

昨年度、臨時的に実施した職員室の分散化を固定し、職員室内の過密化を改善した。

(11) 適正かつ円滑に組織を運営するシステム・組織体制の更なる改善と効率化 【自己評価：○】

ハード・ソフトの両面からの校内教育環境整備、情報管理適正化を徹底するとともに、機能的かつ責任の明確な組織運営を行い、業務縮減に資する改善・見直しを実施する。

○組織的・効率的な業務改善、DXの推進やライフ・ワーク・バランスの意識向上

⇒ 委員（100%） 保護者（1%） 教職員（92%）

○教員と学校介護職員の協働体制の充実は図られていますか。※S部門限定

⇒ 委員（100%） 保護者（91%） 教職員（93%）

- ・分掌組織の検討を行い、次年度に向け一部変更。効率化と業務縮減や業務分担の均等化につなげる。

<研究> 教育活動の一層の充実につなげる全校的実践研究の推進 【自己評価：○】

- ・全国公開研究会（オンライン・Web開催）を令和4年2月4日（金）に実施。

「鹿本学園の学びの構築」を目指し3ヵ年計画の研究をスタートさせた。

全校研究テーマ

「鹿本学園の学びの構築」～1年次「シラバス」づくりと 学びへのアプローチ～

- ・講演 「鹿本学園の学びの構築」

東京学芸大学 総合教育科学系特別支援学校講座 准教授 平田 正吾

- ・分科会 ①「学部段階を意識したねらいの整理と指導の工夫」（S/知的代替、自立活動を主とする課程）

助言者：NPO法人地域ケアさぽーと研究所 阿部 晴美 氏

- ②「児童・生徒主体の学びを引き出すICTを活用した授業へのアプローチ」（S/準ずる課程）

助言者：たすく株式会社 細川 貴 氏

- ③「シラバスづくりを通じた学びの整理・ICTを活用した授業改善への模索」（N部門）

助言者：NPO法人 訪問大学おおきなき 熊谷 修 氏

- ・オンデマンド配信 「特別支援教育の学びの虹をかける ICTの活用 ～鹿本学園・虎の巻～」

たすく株式会社 齊藤 宇開 氏

Ⅱ 次年度以降の課題と対応策

新型コロナウイルス感染対策をきっかけに、学校を取り巻く状況や学習環境は大きく変化している。そうした中、令和4年3月に特別支援教育推進計画第二期第二次実施計画が公表され、進路実現や医ケアの充実が特別支援学校の重要な取り組みとして示された。学校は、GIGA 端末の導入・活用だけでなく、行事の在り方や授業デザインも、変化への対応を求められている。変化する社会に対応し、特別支援学校の役割を果たして行く為に、これまでの取り組みがそのままでは通用しないという意識で、次年度以降は以下の課題に取り組み、見直し・改善を進める。

(1) society5.0 社会に向けた教育活動の見直し・改善（ICT活用と感染対策）

- ・全校研究と連動した指導計画の見直し
- ・時間割の検討
- ・オンライン学習の整備・充実
- ・GIGA端末の発展的活用や新たな活動の創出

(2) 医ケア実施体制の充実と各種事業の推進

- ・学校介護職員の積極的な起用で、実施者を確保する。

(3) 組織運営の見直しと業務の改善、縮減、効率化

- ・経営会議と企画調整会議の済み分け、役割の明確化
- ・教員とCG(学校介護職員)の情報共有・連携に向けた会議等の改善

(4) 学校評価の改善

- ・学校評価の全体像の見直しと確認(経営会議)
- ・学校運営連絡協議会との連動の強化
- ・学期単位でのPDCAサイクルによるスピード感のある評価と改善

(5) 創立10周年に向けた取り組み

- ・プロジェクトチーム等、校内組織への位置づけ
- ・児童・生徒の取り組み内容、活動計画の作成
- ・記念事業の企画立案
 - ・愛唱歌
 - ・記念ロゴ
 - ・着ぐるみの改修や更新
 - ・環境整備(ピクチャーロード)

★ **DXの推進：組織全体が、あらゆる場面でDXによる改善を進める**